



埼玉県立大学保健医療福祉 科学学会(SPU学会) News Letter

2024年3月
第9号

埼玉県立大学保健医療福祉科学学会(SPU学会), 〒3438540 埼玉県越谷市三野宮 820
URL: <https://www.spu.ac.jp/about/society/> E-mail: spu-jhcs@spu.ac.jp

埼玉県立大学保健医療福祉科学学会 第14回学術集会報告

第9号目次

- 1 埼玉県立大学保健医療福祉科学学会 第14回学術集会報告
- 2 埼玉県立大学保健医療福祉科学学会 第15回学術集会開催予定
- 3 埼玉県立大学保健医療福祉学会 入会のご案内
- 4 『保健医療福祉科学 Journal of Human Care Sciences』投稿論文募集

〈お知らせ・会員連絡〉

1.開催概要

会期: 2023年11月25日(土) 9:50~17:45

会場: 埼玉県立大学(対面開催)

テーマ: 多様な社会実装

参加登録者数: 21名

2.プログラム

1)基調講演(録画)

豪州/米国/英国における地域在住高齢者/障害のある人の

交通手段使用能力の評価と支援

講演者: Prof., Dr. Unworth

(Institute of Health and Wellbeing, Federation University Australia; Adjunct professor Monash University, Australia; Adjunct Professor Jönköping University, Sweden; Adjunct Professor James Cook University, Australia)

司会・進行: 中村裕美(作業療法学科)

2)ポスターセッション

発表者 山本英子さん(埼玉県立大学保健医療福祉学部 看護学科)

3)パネルディスカッション

多様な社会実装1 様々な領域で活躍する卒業生

講演者: 會田朋也さん(感動画株式会社)

松浦弘志さん(株式会社 ハートフル サテライト旗の台 副所長)

白鳥真吾さん(読み書き相談室よしかわ)

司会・進行: 中村裕美(作業療法学科)

4)特別講演

多様な社会実装2 社会実装と保健医療福祉の専門職のキャリアデザイン

講演者: 元廣惇さん(株式会社 Canvas 取締役)

司会・進行: 中村裕美(作業療法学科)

5)教育講演・市民公開講座(録画)

スコットランドでの子ども、養育者、教師との協業を通じたインクルーシブ教育

講演者: Senior Search Fellow Dr. Maciver (Queen Margret Univ)

司会・進行: 中村裕美(作業療法学科)

3. 埼玉県立大学保健医療福祉科学学会 第 14 回学術集会 実行委員

学術集会長 中村裕美 (埼玉県立大学 作業療法学科 教授)

実行委員長 押野修司 (埼玉県立大学 作業療法学科 准教授)

学術集会企画運営委員 高柳雅朗 (埼玉県立大学 保健医療福祉学部 共通教育科)

運営委員

白倉京子 (作業療法学科 教授) 小池祐士 (作業療法学科 助教) 小泉浩平 (作業療法学科 助教)

笹尾久美子 (作業療法学科 准教授) 柴田貴美子 (作業療法学科 准教授)

鈴木貴子 (作業療法学科 准教授) 田坂翔太 (作業療法学科 助教) 濱口豊太 (作業療法学科 教授)

松尾彰久 (作業療法学科 准教授) 敬称略、順不同

4. 学術集会長総括

本学術集会は「多様な社会実装」をテーマとして開催しました。今回の学会テーマは「多様な社会実装」とさせていただきます。社会実装は、2013 年から使用されている新しい用語です。社会実装は、研究成果を社会に還元することで、人々の生活に便益をもたらすことであると説明されます。したがって、生活に便益を得たと感じる人々からの意見聴取は必要であり、クライアントや一般市民もまた、多職種連携の重要なメンバーです。

学術集会の名称にかなうよう国内外で活躍する研究者や社会実装を推進する卒業生を招聘しました。当日は全企画を合わせて延べ 21 名のご参加をいただきました。

基調講演では、豪州 Federation 大学の Unworth 教授を招聘し、「豪州/米国/英国における地域在住高齢者/障害のある人の交通手段使用能力の評価と支援」として、ランダム化比較試験を含む最新の知見を紹介して頂きました。移動手段の獲得は社会参加に必須な課題ですが、日本ではセラピストによる社会実装が進んでいない領域です。講演では、地域在住高齢者/障害のある人々が安全に車両の操作ができるよう、その訓練や評価方法の確立、教習所との連携、さらに新人セラピストが臨床活動で経験者に引けを取らない介入や支援ができるためのプログラム開発など、多岐にわたって知見を披露していただきました。なお、同教授は、2024 年 11 月に札幌で開催される環太平洋アジア地域作業療法学会に基調講演の演者としても招聘されています。この国際学会に先駆けて、SPU 学会で最新の知見をご披露いただきました。

パネルディスカッションでは、多様な社会実装 1 様々な領域で活躍する卒業生をテーマに掲げ、卒業生 3 名に登壇いただき活動を報告していただきました。作業療法の源流の 1 つに、世界大戦で心身に重篤なダメージを負った人々の社会復帰の支援があります。それは現在も作業療法の実践の主要な領域です。作業療法の源流を学ぶほどに、人々の社会参加を推進する役割の大きさを痛感します。そこで、自らの専門性を生かして社会参加の場を広げ、またクライアントの社会参加を支援している卒業生にご講演いただきました。

まず會田朋也さん(感動画株式会社)には、就労支援の立場から、就労を希望する人々にどう接しているかについて、実践例を交えてお話いただきました。さらに、企業の経営者としての立場から、雇い入れ企業である株式会社・社会福祉法人・医療法人など企業向けのサービス(採用代行、働く職員向けの研修、経営者の壁打ち役など)に加え、直営での訪問看護事業の運営にも話を拡大していただきました。會田さんは、公演の最後を“作業療法を通じて「人」が社会で生きることの素晴らしさを体験してきたからこそ、働く人々を「単純な労働力」ではなく「人」として大切にしつつられる「人」と経営が両立できる経営モデルを推進していきたい”と結び、作業療法士が行う社会実装の基本理念を確認してくださいました。

卒業生の二人目は、松浦 弘志さん(株式会社 ハートフル サテライト旗の台 副所長)でした。松浦さんは、全国的にも珍しい精神科領域の訪問事業を展開する会社に勤務し、管理者業務も踏まえて、地域における作業療法実践の幅の広さを紹介してくださいました。実際にかかわったクライアントを例に挙げながら、健康上の問題を持ちながら生活する人々を支え、またそうした支援を持続可能性のあるシステムとするための専門職の協業についてお話いただきました。

卒業生の三人目は、白鳥 真吾さん（読み書き相談室よしかわ 代表）でした。白鳥さんは、起業家として、また数々の自治体の児童発達を担う部門のコンサルテーション役割を担っています。その原点となった幼少期の友人とのかかわりから話をはじめ、埼玉県立大学に進学する前の他大学での教育学部での活動に話を展開し、自らの理想を社会実装するための協業など、多岐にわたってお話くださいました。資格取得後に、ひとつの施設に所属し働く人々が多い中で、クライアント（個人、学校、自治体）の求めに応じて機動力を発揮している白鳥さんの活躍は先進的な内容でした。

多様な社会実装 2 地域産学連携として、元廣 惇さん（株式会社 Canvas 代表取締役 / 島根大学 客員研究員）をお招きしました。そして“セラピストの新たな働き方を創る『職業病に着目した「地域共創型」ベンチャー』”とテーマを掲げて、起業家としての活動をご紹介いただきました。2021年3月に創業した「株式会社 Canvas」は産・官・学・金の各機関との「地域共創」による連携体制を構築し、仕事起因の様々な健康問題を「職業病」として解釈し、作業療法の専門性を活かした健康経営支援コンサルティングを幅広く展開しています。そして、サービスの導入企業数は、2023年11月時点で約70企業まで増加し、企業のサービス導入前後比較で数百万単位の労働生産損失額の減少、また、入職者の増加、離職者の減少など複数の経営上の望ましい成果をあげています。元廣さんは、最後に“作業療法士は医療従事者の中でも特に対象者の「暮らし」や「仕事」など人間らしさに根ざした観点から支援する強みがあり、本来、働く現場の複雑性に真に向き合うことができる哲学と能力を有した職業である”と結ばれています。

教育講演/市民公開講座では、Maciver 博士（Queen Margret 大学 シニアリサーチフェロー）を招聘し、「スコットランドでの子ども、養育者、教師との協業を通じたインクルーシブ教育」として、子どもや養育者がアクセスできるプラットフォームの構築の背景、そして今回は小学校の教師とセラピストの協業に焦点化して協業をご紹介いただきました。日本では、インクルーシブ教育として、特別支援学級や通級などが整備され、特別支援学校が地域のインクルーシブ教育の中核的役割を担うようになりました。しかし、国内の教育報告には、保健医療福祉の専門職との連携について、教育者も養育者も問題を感じている実態が明かされています。個別支援では専門性を発揮できるセラピストではありますが、集団または、教室や学校の単位での活動は限定的です。Maciver 博士には、何を障害と定義するかの哲学や理念から、インクルーシブ教育に携わるセラピストの立ち位置をご説明いただきました。そして、学校の教師や養育者、さらに子ども本人が用いることができるよう平易な用語を使うことや、個々のニーズに応ずる多様性の理解の重要性を含めて、構築したプラットフォームのコンテンツをご紹介いただきました。

最後に、学術集会の運営に当たっては、学会本部および学術集会企画運営委員から多大なご支援を賜り、また、多くの皆様からのご協力により、第14回学術集会を盛会とすることができました。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

埼玉県立大学保健医療福祉科学学会 第15回学術集会開催予定

埼玉県立大学保健医療福祉科学学会 第15回学術集会の開催に向けて

共通教育科 教授 東 宏行

第15回学術集会は、2024年11月9日（土）に開催予定です。テーマは「こどもに寄り添う多職種連携」です。本学では、養護教諭等、教職の養成もおこなってきました。本学会ではこれまでの成果をまとめ、今後の発展に向けて、様々な課題を議論したいと考えております。学会の詳細は現在鋭意調整中ですが、専門家によるシンポジウム、教育講演に加え、本学卒業生を招き、現場からの課題や提言をワークショップという形で集約したいと考えています。多くの方の参加をお待ちしております。

埼玉県立大学保健医療福祉学会 入会のご案内

教員・研究者の方々、大学院生、学部生、保健医療福祉領域
でご活躍されている臨床の方々の日頃の成果の発表の場とし
て、是非本学会をご活用下さい。なお、退会される場合には、当
該年度の 3 月末日までにご連絡ください。

入会金：不要

年会費：正会員 4,000 円

準会員（大学院生を除く学生）1,000 円

賛助会員 1 口 5,000 円以上

入会方法：指定口座に年会費をお振込みの上、下記 URL ま
たは QR コードより入会申込フォームにご入力下さい。ご入金と、
フォームへのご入力をもって会員登録となります。

[埼玉県立大学 Web Class 公開 URL]

<https://swclass.spu.ac.jp/webclass/login.php?id=8f5d3518ff1b4b866a45c300ebfc3d48&page=1>

※「**ゲストログイン**」より開始



振込先：

【郵便振替】

加入者名：埼玉県立大学保健医療福祉科学学会

口座番号：00110-2-595897

【振込口座】

銀行名 ゆうちょ銀行

金融機関コード 9900

店番 019

店名 〇一九店（ゼロイチキュウテン）

預金種目 当座

口座番号 0595897

入会についてのお問い合わせは、下記までご連絡下さい。

〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮 820

埼玉県立大学内 埼玉県立大学保健医療福祉科学学会

事務局 E-mail：gakkai@spu.ac.jp

会計係 E-mail：gakkai-kaikei@spu.ac.jp

領収証につきまして
2021 年度より、振替払込受領証
（ご利用明細）をもって
領収証に代えさせていただきます。
振替払込受領証とは別に本学会からの
領収書が必要な場合は、
Eメールより会計係までお知らせください。

『保健医療福祉科学 *Journal of Human Care Sciences*』 投稿論文募集

本学会では、「科学技術情報発信・流通総合システム」
（J-STAGE）に機関誌を掲載しています。

○論文は年間を通して随時受け付けております。ご投稿の際に
は、投稿規程および倫理指針をご熟読の上、ご投稿ください。

○投稿規程等は、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会 HP
（<https://www.spu.ac.jp/about/society/>）で最新版の
ご確認をお願いします。皆様からのご投稿をお待ちしております。



埼玉県立大学内「保健医療福祉科学」編集委員会事務局

E-mail：spu-jhcs@spu.ac.jp

<お知らせ>

ニューズレターは 9 月と 3 月の年 2 回発行しています。

ニューズレターは本学会ホームページにも掲載しております。

ご覧いただけますと幸いです。

<会員連絡>

会員情報に変更等がある方は、事務局までご連絡下さい。

SPU 学会ニューズレター第 9 号編集担当（総務）

埼玉県立大学内「保健医療福祉科学」

事務局 gakkai@spu.ac.jp

